

インフォメイト

Vol.23
July
2019

【特集】

令和の消化器内視鏡

栄養食事指導を通じて病院から地域まで
"つながる"栄養サポートを目指します

新国家資格「公認心理師」の当院での役割

ICTを活用し医療の質を向上

「視る」ことに主眼があったと言えます。
平成24年11月12日発行の公立昭和病院院外報
しょうわ(本誌の前身)には、前任の武田雄一
部長が「いまどきの内視鏡〜日本発の「スゴ技」〜
と題して様々な内視鏡のメリットを紹介され
ています。以後も内視鏡の進歩は続き、当時
よりも広さのある平坦型の悪性腫瘍を食道か
ら胃、十二指腸、大腸に至るまで、内視鏡的周
辺切開粘膜炎層剝離術 ESD (endoscopic
submucosal dissection) にて切除し得るこ
とが出来るようになってきました。適応病変の発
見のために、拡大内視鏡や NBI (Narrow
Band Imaging) とよばれる非可視光での観察
方法も用いられています。
原因不明の消化管出血や腹痛診断にカプセル
内視鏡、小腸内視鏡も開発され、診断のみなら
ず潰瘍性病変の止血なども行われています。
超音波内視鏡による膵癌の発見、膵頭部腫瘍の
病理組織検査、慢性膵炎の経過観察、胆嚢隆起性
病変、膵胆管合流異常、膵嚢胞性病変の診断と経
過観察、更にはこれらを活用して、EUS/FNA と
呼ばれる腹腔内の充実性腫瘍を穿刺して組織診断
を得ることも可能となっています。急性膵炎や慢



令和の消化器内視鏡

内視鏡科部長 川口 淳

昭和20年代半ば
に光学レンズを用
いたガストロカメ
ラが産声をあげ、
様々な開発、改良
が加えられ、昭和
の最後にCCDを
用いた電子内視鏡
が登場しました。
昭和の内視鏡は
「視る」ことに主眼があったと言えま
す。
平成は「内視鏡治療の開発、進歩の時代」であり、多
人数での同時観察、動画撮影が可能な電子内視鏡の進
歩抜きに語れませんし、チーム医療が求められる時代
にマッチしたものです。当院でも最近5年間
(2014年4月から2019年3月)では2万
1909件の上部消化管内視鏡検査、1万3668
例の大腸内視鏡検査、1697例のERCP、401
件のEUS、81件のEUS/FNAを行うなど、当院の
内視鏡科は多くの検査種類と治療手段を有しています。
さて、令和の消化器内視鏡は、よりよく病変が
視えることのみならず、いずれはAIを用いての
診断が進み、平成の時代に進歩発展した各種内視
鏡治療の標準化がさらに進み、低侵襲治療の代名
詞とも言える各種の消化器内視鏡検査治療は、多
くの福音を人類へもたらすものと思います。令和
の内視鏡は「幸福」をもたらすものと期待します。
健康管理の一環での当院の人間ドック(約1万
3000例の上部消化管内視鏡検査)や住民健診
も利用し、病気の早期発見に努めていただき、主
治医の先生とご相談の上、当院を選んでいただ
ければ幸いです。

地域医療連携室だより!

7市医師会連絡協議会が開催されました!

あつという間に令和を迎えてしまいましたが、時が過ぎるのは早いもので、皆様も令和という響きを違和感なく受け入れられているのではないのでしょうか。さて、先日、地域医療連携室においても、令和になって初めての会議が開催されました。

記念すべき令和1回目の会合となったのは、「構成7市医師会・公立昭和病院連絡協議会」(公立昭和病院運営協議会・公立昭和病院高度医療機器共同利用委員会を含む)です。当日は、当院の講堂に各市医師会、構成市役所、保健所、東京消防庁などの方々と、当院の医師など50人が集まりました。



「医師会と当院の医師が、一緒に勉強中です!」

この会は、構成市の医師会と当院との円滑な連携によって、地域社会に貢献することを目的に行われるものであり、当院が地域の公立病院としての様に活動しているかを、経営母体や地域の医療関係者へ報告する場でもあります。

そのための、この会は、当院と地域を繋ぐ「架け橋」のような、重要な会となっています。



「患者さんの連携が、うまくいかない例について、意見が出されました。」

この会は、構成市の医師会と当院との円滑な連携によって、地域社会に貢献することを目的に行われるものであり、当院が地域の公立病院としての様に活動しているかを、経営母体や地域の医療関係者へ報告する場でもあります。

この会は、年に2回開催されます。業務多忙の中、各関係者が当院の講堂に集まり、情報を共有化し、連携を推進させていることは、一般の方々にはあまり知られていないことと思います。

この会は、年に2回開催されます。業務多忙の中、各関係者が当院の講堂に集まり、情報を共有化し、連携を推進させていることは、一般の方々にはあまり知られていないことと思います。

《公立昭和病院の理念と方針》

- 【理念】
一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します
- 【方針】
- 1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
 - 2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
 - 3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
 - 4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
 - 5 信頼される優れた医療人を育成します
 - 6 健全な病院経営に努めます

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、西東京市の7市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に答えています。

Access



公立昭和病院
〒187-8510 東京都小平市花小金井8-1-1
tel.042-461-0052 fax.042-464-7912
<http://www.kouritu-showa.jp/>



栄養食事指導を通じて病院から地域まで つながる「栄養サポート」を目指します

栄養科管理栄養士 猪瀬 佳代子

「食べる」ということは単に栄養をとるだけでなく、生きる喜びの一つでもあります。栄養科では管理栄養士が医師の指示に基づき、患者さん一人ひとりの生活環境やライフステージに合わせた食事療法を提案しています。栄養食事指導は、何をどのくらい食べたらいいか、食べ方のコツや調理の工夫について具体的な献立をもとにお話しをします。最近では、コンビニや市販・宅配惣菜の利用を中心とした食生活も増えています。管理栄養士は、それぞれの食生活に栄養の専門家として寄り添い、病院と在宅をつなぐ、きめ細やかな栄養サポートを心掛けています。



写真 体成分分析装置

臨床心理士やスクールカウンセラーなど心理の専門職は、近年その必要性が高まっております。公的機関を含めた様々な組織に活躍の場を広がっていますが、日本にはつい最近まで民間の資格しかありませんでした。昨年、初の国家試験が実施され、今年2月、「公認心理師」が誕生しました。公認心理師は既に、保健医療、福祉、教育、産業、司法等、多くの分野で心の問題に取り組んでいます。高度・急性期医療センターの当院では、公認心理師は、心療内科や小児科を中心とした個別の心理療法や検査の他に、表に示した4つのチームで活動しています。

臨床心理士やスクールカウンセラーなど心理の専門職は、近年その必要性が高まっております。公的機関を含めた様々な組織に活躍の場を広がっていますが、日本にはつい最近まで民間の資格しかありませんでした。昨年、初の国家試験が実施され、今年2月、「公認心理師」が誕生しました。公認心理師は既に、保健医療、福祉、教育、産業、司法等、多くの分野で心の問題に取り組んでいます。高度・急性期医療センターの当院では、公認心理師は、心療内科や小児科を中心とした個別の心理療法や検査の他に、表に示した4つのチームで活動しています。

臨床心理士やスクールカウンセラーなど心理の専門職は、近年その必要性が高まっております。公的機関を含めた様々な組織に活躍の場を広がっていますが、日本にはつい最近まで民間の資格しかありませんでした。昨年、初の国家試験が実施され、今年2月、「公認心理師」が誕生しました。公認心理師は既に、保健医療、福祉、教育、産業、司法等、多くの分野で心の問題に取り組んでいます。高度・急性期医療センターの当院では、公認心理師は、心療内科や小児科を中心とした個別の心理療法や検査の他に、表に示した4つのチームで活動しています。



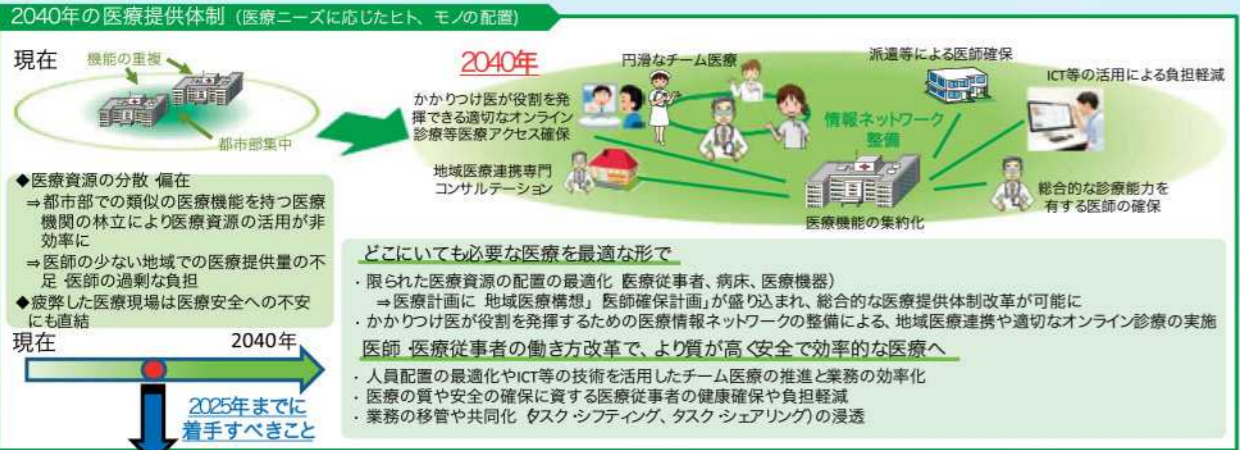
ICTを活用し医療の質を向上

医療情報管理室 室長 松村 健

【激変する北多摩地区の医療介護環境】
これまでは、団塊の世代(昭和22~24年生)の方々が75歳以上となり後期高齢者が2千万人を越す「2025年問題」が騒がれていました。現在はいわゆる「就労氷河期世代」と呼ばれる層が高齢者層に移行していき、更に社会保障の環境が厳しくなる「2040年問題」が更に深刻な問題として加わってきています。そして、当地の多摩地区では東京オリンピック後の2020年、生産緑地問題の2022年の問題が重なり、医療介護環境だけでなく、生活環境も厳しいものになるのではないかと予想されます。私共、公立昭和病院といたしましては、地域の責任ある公立基幹病院として、そういった厳しい環境の中でも、市民の皆様方へ医療の質を低下させることなく、むしろ向上させるにはどうしたら良いのかを日々考え改善に努めております。その一つの活動として以下を紹介させていただきます。

【行政の医療提供体制の改善とは】

2040年に向けて、2025年問題への対応を行った上で、厚生労働省は、①どこにいても必要な医療を最適な形で、②医師医療従事者の働き方改革で、より質が高く、安全で効率的な医療へ、という目標を掲げ、国内の医療機関に対し推進の後押しを行いはじめました。(資料1)具体的な策の中では、「ICTの技術を活用したチーム医療の推進と業務の効率化」「医療情報ネットワークの整備による地域医療連携」の推進があります。その2点に関して、当院の医療情報部門では北多摩地区で率先して着手し、推進中です。



資料1 (出典:厚生労働省医療部会)

新国家資格「公認心理師」の当院での役割

心療内科 公認心理師(臨床心理士) 野澤 千香子

臨床心理士やスクールカウンセラーなど心理の専門職は、近年その必要性が高まっております。公的機関を含めた様々な組織に活躍の場を広がっていますが、日本にはつい最近まで民間の資格しかありませんでした。昨年、初の国家試験が実施され、今年2月、「公認心理師」が誕生しました。公認心理師は既に、保健医療、福祉、教育、産業、司法等、多くの分野で心の問題に取り組んでいます。高度・急性期医療センターの当院では、公認心理師は、心療内科や小児科を中心とした個別の心理療法や検査の他に、表に示した4つのチームで活動しています。

【公認心理師が関わる医療チーム】

- 精神科リエゾンチーム**
入院中、精神面に配慮したケアや治療を必要とする患者さん対象。心療内科医師、認知症看護認定看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーとともに活動。
- 緩和ケアチーム**
入院中、心身の苦痛の緩和を必要とする患者さん対象。緩和ケア・心療内科等医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士とともに活動。
- 周産期メンタルヘルスクアチーム**
妊娠、出産、子育ての初期や、生まれたばかりの赤ちゃんが入院中で不安等を抱えたお母さんとパートナー対象。産婦人科医師、小児科医師、助産師、看護師、理学療法士、ソーシャルワーカーとともに活動。
- 糖尿病療養指導チーム**
療養指導・教育を必要とする糖尿病患者さん対象。糖尿病・内分泌内科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、歯科衛生士とともに活動。

【昭和病院の医療情報推進の状況】
本年、2月に病院全体のICT関連(電子カルテ・画像システム等々)のリニューアルを行い、患者さんの医療情報を、「安全」「正確」「迅速」に共有化を行うことのできる環境を作り、それを院内だけでなく、院外の医療機関や介護業者等、多職種への情報共有化を可能とするため、医療情報連携システムを導入しました。これらのICTの導入により、医療の質を向上し、更に業務改善・働き方改革にもつながり、結果的には医療費の無駄をなくしていきま。簡単に医療情報連携システムをみると資料2の図の様に、一人の患者さんのデータを(患者さん同意の上で)複数の決められた病院クリニックで情報共有し、患者さんへの治療を円滑に行う仕組みです。すでに、本院では450名以上の患者さんのデータを、普段通院する地域のクリニックのかかりつけ医の先生と共有し、治療に生かしています。



【当院と東京都全体の医療の将来像】
公立昭和病院では、その一つの取組みとして「地域完結型」の医療体制の推進を行っています。「地域完結型医療」とは、地域の中で公立・民間等経営母体と関係なく、病院やクリニック等がそれぞれの特長を活かしながら役割を分担し、地域の医療機関全体で一つの病院(バーチャルホスピタル)の様な機能を持ち、切れ目の無い医療を提供していく、というものです。その取組みは当院ですでに昨年から始動しておりますが、これからさらにステップアップしていかねばなりません。

このステップを経て、最終的に数年後には、マイナンバーの保険証利用等も含め、全国で統一された医療情報ネットワークが構築され、将来の日本の医療体制の整備を完成させて行くものと期待しています。そのためにも、一日も早く当地区での課題の完遂に向けがんばります。市民の皆様方にも、ご理解ご協力いただけますようお願い申し上げます。